

2023年3月2日

<報道発表資料>

KDDI 株式会社
KDDI エンジニアリング株式会社

Starlink を活用した車載・可搬型基地局を導入 ~災害時でも高速・低遅延な au 通信を実現、2023 年春以降順次全国配備~

KDDI と KDDI エンジニアリングは、2023 年春以降、衛星ブロードバンドサービス「Starlink」をバックホール回線として利用する車載型基地局と可搬型基地局（以下 本基地局）を全国に順次導入します。これにより、災害時においてもお客さまへ高速・低遅延な au 通信の提供を目指します。

地震や台風などによる自然災害が発生した際に、通信の圏外地域に対して本基地局を展開することで、迅速に通信を復旧し、お客さまや復旧作業に携わる方々への安心・安全な環境づくりを実現します。

本基地局は衛星通信機材を Starlink の機材に変更することで小型・軽量化しています。現場への持ち運びや設置が容易となり、設置時間を短縮し災害時の迅速なエリア復旧に貢献します。



<Starlink をバックホール回線として利用した車載型基地局（左）と可搬型基地局（右）>

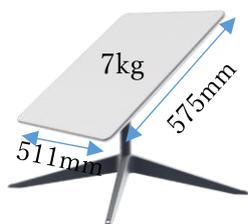
■背景

近年、自然災害の激甚化・長期化が増加しています。災害発生時の情報取得・情報発信には従来のニュースサイトなどだけでなくソーシャルメディアを通じた動画も重要となっており、被災地域におけるデータ通信の高速化・低遅延化が求められています。

このような環境変化に対応するため、Starlink をはじめ新たな技術の活用や設備の増強を通じて、被災地域などでも高速・低遅延な au 通信の提供を目指します。

■本基地局の概要

- ・本基地局は Starlink の特長である低軌道衛星との通信により、従来の静止軌道衛星を利用した基地局と比較して、高速・低遅延な au 通信の提供が可能となります。これにより、災害情報の収集・発信などで SNS や動画を活用いただけます。
- ・本基地局で使用する衛星通信機材は従来の車載型基地局・可搬型基地局で使用する衛星通信機材と比較し約 5 分の 2 の大きさ、約 7 分の 1 の重さです。持ち運びや設置が容易となるため、エリア復旧時間の短縮につながります。また、災害現場への運搬に必要な人員の稼働も低減します。



<本基地局の衛星通信機材>



<従来の可搬型基地局の衛星通信機材>

なお、本基地局は 2023 年 3 月 2 日に神奈川県横浜市で実施した「2023 KDDI 災害対策訓練」で公開しました。

KDDI グループは、「KDDI VISION 2030」として「『つなぐチカラ』を進化させ、誰もが思いを実現できる社会を作る。」ことを目指しています。今後も Starlink などの技術を活用し、災害時などでも命、暮らし、心をつなぐ取り組みを継続していきます。

以 上